



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国ライチ農場における職工農家の分化と高所得農家の特徴：中国広西省靈山県華山国有農場を事例として
Author(s)	小松，知未；東山，寛；何，梁棟
Citation	フロンティア農業経済研究，21(1)，114-122
Issue Date	2018-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73029
Type	journal article
File Information	21(1)_16_he.pdf



〔報告論文〕

中国ライチ農場における職工農家の分化と高所得農家の特徴 —中国広西省靈山県華山国有農場を事例として—

北海道大学大学院農学院 何 梁 棟*
北海道大学大学院農学研究院 小 松 知 未
北海道大学大学院農学研究院 東 山 寛

The Study on the Differentiation of farm workers and the Characteristics of high income farmers in Litchi state farms in China : A case study of Huashan state farms in Lingshan, Guangxi, China

LIANGDONG HE^{*a}, Tomomi KOMATSU^b and Kan HIGASHIYAMA^b

^a Graduate School of Agriculture, Hokkaido University

^b Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University

Summary

This study considers the Guangxi Huashan farm, which is one of the state farms in the main litchi-producing areas of China, as the research object. Differentiation of litchi farmers and the characteristics of high-income litchi farmers are investigated, according to farmers' land area, family participation, and income.

The conclusions of this study are as follows. First, the peasant families share common characteristics such as having equal land area, similar agricultural labour force composed of one or two men, and disinterested younger people not joining agricultural work. Second, according to the differences in selling behaviour, the farmers are divided into A farmers, who manage the trees and sell the harvest themselves, and B farmers who sell the rights of harvest and subsequent sale halfway through the growing season. Third, the high-income farmers specialize in litchis and have advantages of better breeds, yield, and marketing channels.

I 背景と課題

本稿では、特産物の産地における農業経営の展開に関する事例研究の一つとして、ライチ主産地における農家の経営実態調査分析を行う。

改革開放以来、中国国内では所得弾力性の高い果物、肉類などの需要が上昇している。本稿は、

需要拡大が見込まれる特産物の一つとしてライチに着目する。2014年中国農業部は「特色農産品区域布局規劃（2013－2020年）」（特産物の振興地域を区分する計画）を打ち出し、広西省の南部をライチ振興地域に位置づけた。2015年に中国農業綜合開発事務室（財務部所属）は、全国を対象に「農業綜合開発扶持農業優勢特色産業規劃」（特産

* Corresponding author : karyouto@agecon.agr.hokudai.ac.jp

物の振興を支援する計画)を打ち出し、特産物の振興を推進している。

中国のライチ栽培面積は約60万ha(世界85%)、年間産出量は130万トン(世界71%)で、世界市場の大きなシェアを占めている(盧美英ほか[2])。国内では、主要4省(広東省、広西省、福建省、海南省)が生産量の98%以上を占めている(中国農業統計資料2016年)。事例地域とする広西省は、主産地として広東省に次いで国内2位のライチ生産量を誇っている。

ライチ農家に関する研究では、栽培選択や技術向上に必要な支援体制に関する研究が主である(荘ほか[5][6])。ライチ農家の経営展開については、数少ない先行研究として、斉ほか[4]が、販売対応に関するアンケート分析により販路別の評価を示した研究がある。一方、農家所得構成に関する研究は、他産業との所得格差に関する研究が多く、特産物の産地における農家所得に関する研究が不足している。

そこで本稿では、中国ライチ農場における職工農家を対象に実態分析を行う。販路別に評価が異なることを踏まえ、販売対応に着目して農家を区分し、それぞれの請負面積、世帯構成、所得構成を整理する。それらを総合的に考察し、ライチ農家の分化と高所得農家の特徴を明らかにすることを課題とする。

II 事例とするライチ農場の展開

1. 靈山県の概況

靈山県は広西省の東南部に位置し、ライチ面積は3.7万haで、全国ライチ栽培面積の7%を占めている(中国農業統計資料2016年)。県内では多様な果物が栽培されているが、ライチ栽培面積が最も大きく、その割合は50%となっており、「中国ライチの郷」と呼ばれている(靈山県統計年鑑2015年)。

靈山県は広東省の一部であったが、1965年に広西省に区分され、それ以降は欽州市の管轄である。全県には18の鎮があり、総面積は3,359km²である。第一次産業のGDP割合は35%となっている(靈山県統計年鑑2013年)。

2014年センサスによると、靈山県の総人口は163万人(省内3番目)、うち農業人口は149万人で総人口の92%を占めている。長期出稼ぎの農民は43万人で、農村労働力の49%に達している(江洪[1])。

2. 華山農場の位置づけ

県内には「広西農墾国有新光農場」、「靈山県龍武農場」、「広西農墾国有華山農場」という農場が設置されている。この3つの農場は、ライチを基幹作物とするという点では共通しているが、農場指導体制と立地条件が大きく異なっている。

新光農場と龍武農場は、農場管理委員会の主導により、モデル地区(ライチ示範区)を拠点として、栽培技術の向上、高品質品種の導入、ブランド力の強化、観光果樹園の開発などが行われている。主要な道路沿いに立地しており、観光果樹園の施設整備(販売・飲食・宿泊施設等)が重点化されている。

一方、事例とする華山農場は、モデル地区が設置されておらず、農場管理委員会主導の振興方策が具体化していない。また、主要な道路から外れた山間部に立地しており、観光開発が遅れている。地域的な指導が手薄で、立地条件が不利な事例地域は、営農実態と所得水準の把握を踏まえた農家ごとの経営目標の明確化が強く求められている地域といえる。

3. 華山農場の展開

華山農場には、管理委員(約50名)と職工農家(約670名)が所属している。総面積は2,129ha、うち農地面積は800haである。品目別作付面積は、ライチが300ha、リュウガン(ライチより実が小

さく安価、収穫時期が遅い補完作物）が450haである。華山農場においてライチが基幹作物となったのは1987年以降である。基幹作物の変遷をみると、農場の指針により、ゴム（1952年から70年代）、ミカン（1957年に栽培開始、1981年に最大面積、1987年に黄龍病が蔓延し全て伐採）、ライチへと作物転換がなされている。

農場の歴史的展開と職工農家との関係性を整理する。「職工農家」とは、国営農場が農業生産の請負制を推し進めた時期に、職工（労働者）が農場から請け負った農地により営農を行っている「職工家庭農場」の略称である（朴[3]）。職工農家は、1952年「華屏墾殖場」（華山農場の前身）の設立当初から1981年までは、農場に雇用され、農場からの給料と福利厚生により生計を立てていた。1982年から1994年には、家庭生産請負責任制の実施に伴い、農場から樹園地の経営権を無料で請負うようになった（一定量の生産物納入等の条件付き）。

1995年以降は、職工農家が農場から樹園地の長期経営権を有料で請負い、収穫権もしくは収穫物を販売して収入を得る体制となった。本稿は1995年から22年が経過した2016年を調査時点として、職工農家の実態調査を行った。

Ⅲ 職工農家の実態分析結果

1. 調査の枠組み

中国ライチ産地の概況を把握するため、予備調査として、2016年8月と2017年2月に、靈山県のライチ農場管理委員会、職工農家、加工会社等を対象にヒアリング調査を実施した。

本調査は、2017年6月から7月に、華山農場の農場管理委員会の仲介により、職工農家15戸を対象に実施した。調査対象は、販売対応によりAタイプ（9事例）とBタイプ（6事例）に区分した。

Aタイプは、自ら果樹管理作業を行い、収穫後

にライチを販売する生産物販売農家である（以下、A農家と表記）。Bタイプは、果樹管理作業の中途（展葉・開花・結実のいずれかの段階）で収穫作業前に収穫権を売却する収穫権売却農家である（以下、B農家と表記）。なお、B農家から収穫権を購入する人材は、職工農家（A農家）や、農場内に居住する非職工農家、農場外に居住する農家、商人など多様な人材が存在している。

分析データは、2016年実績を用いる。ライチの収穫量は、豊作・不作がおおよそ2年周期で繰り返されるが、分析時点は豊作年の単年度としている（A農家平均ライチ収穫量は、2016年が10万2,950kg、2017年が5万950kg）。

分析内容は下記のとおりである。①調査農家の概況として請負農地と世帯構成を把握し、分析枠組みを確認する。②区分ごとの所得構成と水準を比較する、③高所得農家の特徴についてまとめる。調査結果一覧は、ライチ部門収支計の金額の大きい順に表記している。

2. 調査農家の概況－請負農地と世帯構成

1) 請負農地

表1に、職工農家の請負面積と経営耕地面積の概況を示した。まず、農場契約時点の面積を確認していく。事例農家の多くは1995年に農場から一定の面積を請け負っており（15から38ムー）、その後も大きな面積の変動はない。次に、作付面積を確認していく。A農家は、ライチ栽培継続、他作物へ品目転換（A6、A7、A8）と対応が分かれている。B農家はいずれもライチ単作農家であった。最後に、収穫権購入したのはA農家の2事例（A1、A8）のみであった。

2) 世帯構成

表2を踏まえ、2016年職工農家の世帯員数と就業状況を確認していく。世帯人数は、概ね5人前後（孫4人のA3を除く）で、うち同居の人数は

表 1 職工農家における請負面積と経営耕地面積（2016年）

単位：ムー（1ムー＝6.67a）

区分	農家 番号	農場契約時点の面積				経営耕地面積					収穫権購入面積				
		年次	合計 年次	うち ライチ	合計 面積	ライチ			リュウ ガン	その他		面積	品目名	面積	品目名
						小計	農場 契約地	自己 土地		面積	品目名				
生産物 販売	A1	1995年	20	20	121	46	20				26	ライチ	75	リュウガン	
	A2	1995年	38	30	38	30	30		8						
	A3	1995年	29	29	29	29	29								
	A4	1995年	20	20	69	24	20	4	45						
	A5	1995年	23	20	23	20	20		3						
	A6	1995年	23	23	23	15	15			8	みかん				
	A7	2006年	21	21	21	5	5		6	10	オレンジ				
	A8	1995年	15	15	31	16		4		15	ユーカリ	12	ライチ		
	A9	1995年	15	15	15	15	15								
収穫権 売却	B1	1995年	19	19	19	19	19								
	B2	1995年	18	0	45	27	12	15	18						
	B3	1995年	16	0	16	16	16								
	B4	1995年	25	25	25	25	25								
	B5	1995年	16	16	16	16	16								
	B6	1999年	15	15	15	15	15								

資料：聞き取り調査より作成（2017年7月）。

注：1）農場契約地は、職工農家が土地費を払って農場から請け負った土地である。土地は国に所有し、農場は土地の使権を持ってる。調査時点の土地費は104円/ムー/年である。

2）収穫権購入面積は、職工農家が他人から購入した収穫権の契約土地のことを指す。

3）自己土地は、職工農家が自分で開墾した農場の荒地であり、土地費納入は不要である。

表 2 職工農家における世帯員数と就業状況（2016年）

単位：歳

区分	農家 番号	世帯 員数 (名)	うち 同居 (名)	就業状況				就業なし
				農業従事	他産業従事		出稼ぎ	
					自営業	地域内 勤 務		
生 産 物 販 売	A1	5	4	主44, 妻42			子19	娘17, 父66, 母64
	A2	5	5	主59, 妻51, 子29, 嫁29				娘16
	A3	10	8	主64, 子35			子31, 嫁31	妻64, 嫁34, 孫6・7・8・9
	A4	5	5	主50, 妻49(農営)		娘26		子13, 母79
	A5	6	4	主54, 妻53			娘30, 娘27	母84, 孫7
	A6	4	3	主47(農管)		妻33	子20	娘12
	A7	5	5	主36, 父67(補), 母58(補)				子12, 子8
	A8	5	4	主51			子19	妻50, 子16, 母77
	A9	5	4	主51			子23	妻49, 娘14, 母75
収 穫 権 売 却	B1	5	5	主48	妻47			子17, 娘14, 娘13
	B2	5	5	主47, 妻45				子15, 父86, 母77
	B3	5	4	主53			娘31	妻52, 孫7・9
	B4	3	3	妻47		娘24		子14
	B5	4	2	主63			妻50, 子31	娘20
	B6	3	2	主53(農管)		妻49	子26	

資料：聞き取り調査より作成（2017年7月）。

注1）就業況、就業なしの数値は年齢を示す。息子を「子」、娘を「娘」と表記する。

2）(補)＝補助役、(農営)＝農業兼自営業、(農管)＝農業兼農場管職を示す。

4人前後であった。農業従事者は経営者世代夫婦で、A農家は1～4人、B農家は1人が基本である。後継者層で農業に従事しているのはA2とA3のみで、ほとんどの子息は出稼ぎに従事している。就業なしは、学生（9年義務教育政策により学費は低額）、父母世代（元職工農家で、年金受給、ほぼ農業従事なし）である。

ヒアリング調査によると、子息から経営者世代への仕送りは行われていないことから、本稿では、職工農家の世帯所得として、出稼ぎ所得を含めない値を用いる。

3. 職工農家の所得構成とその水準

1) 世帯所得の算出方法

表3に、職工農家の世帯収支を示した。調査手法として、細目別金額を聞き取り、算定式により算出した項目については、下記に算定式を記し

た。その他の項目は、収支金額を総額として聞きとった値を示している。

[1] ライチ部門収支 [生産物販売収支＝販売金額－土地費－肥料費－農薬費－支払労賃－包装費]、[収穫権売却収支＝売却金額－土地費－肥料費－農薬費－支払労賃]、[収穫権購入収支＝販売金額－収穫権購入金額－肥料費－農薬費－支払労賃－包装費]。なお収穫権購入は、共同出資の場合は、持ち分比率で除して1出資者あたりとする（A1、A8）。[3] 農作業労賃等受取 [代理集荷受取収支＝年集荷量×1kgの手続き料金]、[ブローカー受取収支＝販売単価×販売量－買取単価×買取量]。

2) 区分別の所得構成の特徴

表3により、A農家の所得構成の特徴をまとめていく。農業生産関連部門をみると、[1] ライチ部門収支では、収穫権購入（A1、A8）、一部

表3 職工農家における世帯収支（2016年）

単位：元（1元 16.87円）

区分	農家 番号	農業生産関連部門収支				他産業 収 支	年金・ 生活保障	ライチ 部門計 [1]	農 業 生 産 関連計 [1][2][3]	世帯収支 (経営者層) 合 計	
		[1]ライチ部門収支		[2]複合部門収支							[3]農作 業労賃 等受取 金 額
		生産物 販 売	収穫権 ●購入/ ○売却	リュウガン 部 門	その他						
生産物 販 売	A1	117,470	●221,467	未了				338,937	未了	未了	
	A2	381,700		15,000				381,700	396,700	396,700	
	A3	139,844					36,000	139,844	139,844	175,844	
	A4	36,620	○ 3,000	60,000	40,000	37,000	20,000	39,620	176,620	196,620	
	A5	11,680				42,600		11,680	54,280	54,280	
	A6	8,900				36,000	18,000	8,900	44,900	62,900	
	A7	8,480		3,000	5,000	700	15,000	2,400	8,480	17,180	34,580
	A8	-1,500	● 3,725		15,000			13,200	2,225	17,225	30,425
	A9	-80				5,000			-80	4,920	4,920
収 穫 権 販 売 却	B1		○75,674				24,000		75,674	75,674	99,674
	B2		○45,392	35,000					45,392	80,392	80,392
	B3		○23,736					24,000	23,736	23,736	47,736
	B4		○21,000						21,000	21,000	21,000
	B5		○ 2,336				48,000	36,000	2,336	2,336	86,336
	B6		○-6,160			36,000	36,000		-6,160	29,840	65,840

資料：聞き取り調査より作成（2017年7月）。

注1）A1のリュウガン部門収支は未了である。

2）A4の複合部門収支のその他は果樹園養鶏収支である

3）A6の複合部門としてみかん部門をもっているが、収穫予定は2020年なのでその他収支は0である。

4）B6は接ぎ木による品種転換を行っている途中で、一部の農地でのみ収穫権を売却している。収支には全面積の肥培管費を含めたのでマイナスとなっている。

のみ売却（A 4）している事例が存在している。
 [2] 複合部門収支をみると、リュウガン（A 1、A 2、A 4、A 7）、養鶏（A 4）、ミカン（A 7）、ユウカリ（A 8）といった多様な品目から所得を得ている。
 [3] 農作業労賃等受取は5事例あり、代理集荷（A 4、A 5）、ブローカー受取（A 4）、管理者給与（A 6）、収穫労賃受取（A 7）、接木労賃受取（A 9）と、多様な就業により労賃を得ている。他産業収支と年金・生活保障は5事例あるが、そのウェイトは低い。A農家は、農業生産関連部門における収入源が多様化しており、収穫権を購入してライチ収穫規模を拡大する事例、作物の複合化を図る事例、農作業労賃収入を得る事例が存在している。

B農家の所得構成の特徴をまとめていく。

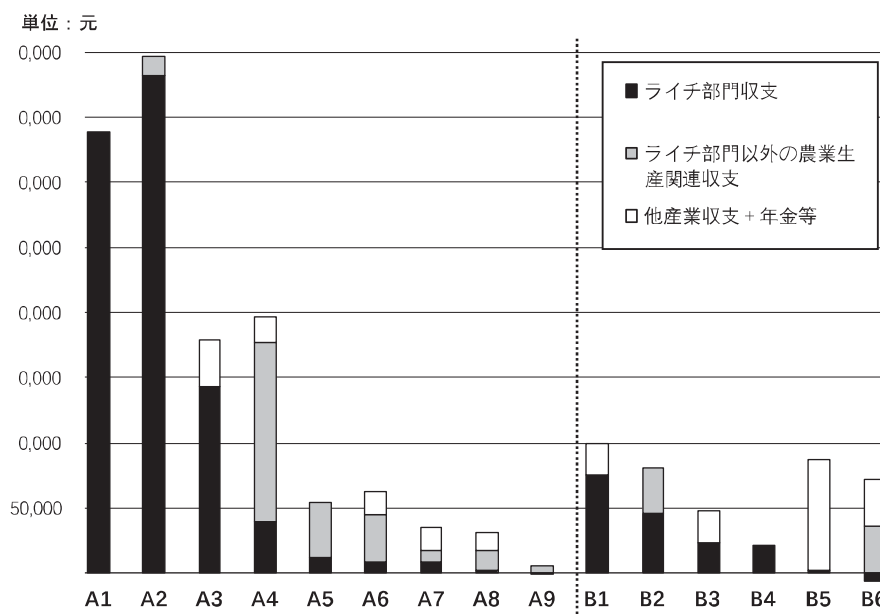
- [1] ライチ部門収支は、収穫権売却収支のみある。
 [2] 複合部門収支は、リュウガン（B 2）のみである。
 [3] 農作業労賃等受取は、管理者給与（B 6）

のみである。他産業収支と年金・生活保障を得ているのは、4事例（B 1、B 3、B 5、B 6）である。B農家は、収穫権売却収支プラス農外収支のパターンが主である。

3）職工農家の所得水準

図1により所得水準をみる。はじめに、統計データとの比較により所得水準を確認する。農村居民一人あたり年間支出は、8,806元（夫婦2名17,612元）で、年間純収入は7,987元（夫婦2名15,974元）である（霊山県統計年鑑2013年）。事例の中で、この値を下回るのはA 9のみで、区分によらず、中国の農村居民平均の純収入を上回る所得を確保していることが分かる。

事例の中で、所得が高いのはA 1とA 2である。どちらも、ライチ部門収支により所得を形成するライチ専業農家である。平均純収入と比較し、A 1のライチ部門収支は21倍、A 2は11倍高く、突



資料：聞き取り調査より作成（2017年7月）。

注：）A1のリュウガン収支は未了のため、ライチ部門以外の農業生産関連収支は0となっている。

図1 職工農家のライチ部門収支と所得水準（2016年）

出した高所得を実現しているといえる。

区分別にみると、A農家は高所得と低所得のばらつきが大きく、B農家は所得総額のばらつきが小さいといえる。

4. 高所得ライチ専業農家の特徴

1) 事例の選定

高所得農家の特徴を把握するため、図2で確認した高所得ライチ専業農家(2事例)を選定し、経営実態を分析する。分析データは、①面積(表1)、②労働力(表2)、③品種・④単収・⑤販路(表4)を用いる。販路については、ヒアリング調査結果により、詳細にまとめる。

2) 事例1：収穫権購入による拡大(A1)

①収穫面積は、38ムーである。その内訳をみると、農場契約地20ムー、長期収穫権購入10ムー

(高品質品種)、単年度収穫権購入4ムー(高品質品種圃場を3名共同出資で12ムー購入。持ち分は3分の1)となっている。収穫権購入により高品質品種の収穫面積を拡大している。

②労働力についてみると、農場契約地と長期収穫権購入地は夫婦2名(主44歳、妻42歳)、単年度収穫権購入地は共同出資者3名である。

③品種構成は、高品質品種の割合が多い。高品質品種は、面積の50%(その他平均13%)、販売総金額の72%(その他平均53%)を占めている。

④単収は、925kg/ムーとなっており、その他の平均の2.6倍高い。

⑤高品質品種の販路は2つある。一つ目は、複数の固定店舗に22元/kgで販売するルートである(50%)。毎年取引している店舗が少なくとも3店舗あり、複数年の取引関係のある販路が半数となっている。なお、その他農家で、複数年同じ販売先

表4 高所得農家とその他農家の収穫・販売実績の比較(2016年)

農家番号	品種区分	品種名	収 穫				販 売			
			面 積 (ムー)	品 種 別 面積比率 (%)	収穫量 (kg)	単 収 (kg/ムー)	価格帯 (元/kg)	販売金額 (元)	品 種 別 販売金額 比 率 (%)	面 積 あたり 販売金額 (元/ムー)
高所得農家	A1	高品質① 桂味	5	13	1,500	300	18~22	30,000	8	6,000
		高品質② 桂味	10	26	6,000	600	18~22	120,000	30	12,000
		高品質③ 桂味	4	11	6,666	1,667	18~22	133,333	34	33,333
		標準品質 妃子笑	15	39	11,000	733	10	110,000	28	7,333
		低品質 黒葉	4	11	10,000	2,500	販売なし			
	合計		38	100	35,166	925	10~22	393,333	100	10,351
	A2	高品質 桂味	20	67	20,000	1,000	20~30	405,820	89	20,291
		標準品質 香荔	10	33	7,500	750	7	49,500	11	4,950
		低品質	0	0	0					
	合計		30	100	27,500	917	7~30	455,320	100	15,177
その他農家平均	A3~A9平均	高品質 桂味	2	13	1,384	692	16~22	23,429	53	11,714
		標準品質 4品種	6	38	466	99	6~10	3,886	9	665
		低品質 黒葉	7	49	3,428	490	4~6	16,757	38	2,264
	合計		15	100	5,278	346	4~22	44,071	100	2,892

資料：聞き取り調査より作成(2017年7月)。

注1) A1の低品質ライチの「販売なし」は、販売価格が収穫作業支払労賃を下回ると見込み収穫を中止している。

2) A1の高品質②自出資し収穫権を購入した。

3) A1の高品質③は3経営で共同出資し収穫権を購入した収穫の持ち分(1/3)を示す。

4) A3~A9の標準品質の4品種は、妃子笑・鶏嘴荔・三月紅・四月荔の合計値を示す。

5) その他農家平均の標準品質の中には、接ぎ木中で収穫のない面積を含む。

に販売しているのはA 4のみであり、単年度ごとに販売先が異なるのが一般的となっている。二つ目は、卸売市場を経由して18元/kgで販売するルートである（50%）。

3）事例2：新たな販路を開拓（A 2）

①収穫面積は、農場契約地の30ムーである。

②労働力が2世代4人と豊富である。経営主（59歳）と妻（51歳）は農作業に基幹的に従事している。後継者（29歳）は農作業の補助と、インターネット販売を担当している。嫁（29歳）は農作業の補助労働力である。

③品種構成は、高品質品種の割合が多い。高品質品種は、面積の67%（その他平均13%）、販売総金額の89%（その他平均53%）を占めている。

④単収は、917kg/ムーで、その他平均の2.6倍より高い。

⑤高品質品種の販路は3つある。一つ目は、固定の集荷業者へ20元/kgで販売するルートである（97%）。固定の集荷業者への販売単価は、平均よりやや高く、複数年継続して取引している。二つ目は、個人消費者（贈答用）へ30元/kgで販売するルートである（1.5%）。顧客は、親戚が運営するホームページによる宣伝により獲得している。インターネットでA 2を知った顧客は、農家から直接ライチを購入するために現地を訪れる。この販路は、販売単価が高く毎年受注量が安定的に推移している。三つ目は、インターネット発注の顧客に30元/kgで販売するルートである（1.5%）。インターネット販売は単価が高く、販売量は近年増加傾向にある。

IV. 考察

本稿の課題は、中国ライチ農場における職工農家を対象に実態分析（2016年）を行い、ライチ農家の分化と高所得農家の特徴を明らかにすることである。分析結果を踏まえた総合的考察は、以下のとおりである。

第一に、職工農家に共通した特徴を二つ指摘する。①事例農場においては、職工農家が農場から農地経営権を有料で請負う体制に移行してからの22年間（1995年から2016年）、契約面積に大きな変動はない。②世帯構成をみると若年層の多くは都市部（近隣の広東省）に出稼ぎに行っている。

第二に、職工農家は、契約面積と農業労働力において共通の特徴を有しているものの、先行研究を踏まえて販売対応に着目して分析すると、①ライチを自ら販売する生産物販売農家と、②栽培途中で収穫権を手放す収穫権売却農家に分化していることが明らかとなった。

区分別の所得構成とその水準をみると、①生産物販売農家は、農業関連の収入源が多様化しており（ライチ部門、他複合部門、農作業労賃収入による所得確保）、農家間の所得格差が大きい。低所得層がいる一方で、一部に高所得ライチ専業農家が存在していることが注目される。②収穫権売却農家は、所得が収穫権売却収支と農外収支により構成されており、所得水準はばらつきが小さく、極端な高所得・低所得層は存在していない。

第三に、作柄が良好な年次において、高所得を実現しているライチ専業農家の特徴をまとめていく。ライチ生産の面では、相対的に単収水準が高く、経営主層の肥培管理能力が優れていることが推測される。また、高品質品種の比率が高く（事例1：収穫権購入によって高品質品種圃場獲得）、高品質品種を特定の業者に複数年にわたって販売することで、安定的な販路を確保している。高単価を実現するために新たな販路を開拓している事

例も存在している（事例2：消費者直接販売、インターネット販売）。

農場主導の振興方策が明確化していないライチ農場においては、職工農家の後継者世代の「脱農」が進んでいる。世帯所得の構成をみると、生産物販売農家の収入源の多様化、収穫権売却農家の農外所得の確保がみられ、ライチ部門所得への依存度が低い農家が大層を占めていることが明らかとなった。ライチ産地の発展方向の検討には、本稿で着目した少数の高所得ライチ専業農家の実態分析に加えて、ライチ収穫権売買に参入する多様な人材の実態把握が不可欠である。この点は、今後の研究課題とする。

引用文献

- [1] 江洪「靈山助力農民工返鄉創業實打實」『欽州日報』2016年。
- [2] 盧美英・郭蔚・潘介春・覃如日「世界荔枝竜眼生産貿易分析及应对措施」『世界農業』2004年8月号、2004年、pp.23-26。
- [3] 朴紅『中国国有農場の変貌 巨大ジャポニカコメ産地の形成』筑波書房、2016年。
- [4] 齊文娥・唐雯珊「農戸農産品销售渠道的选择与评价—以広東省荔枝種植者為例」『中国農村觀察』2009年6月号、2009年、pp.14-22。
- [5] 莊麗娟・張杰・齊文娥「広東農戸技術選択行為及影響因素の実証分析—以広東省445戸荔枝種植戸の調査為例」『科学管理研究』30巻8号、2010年、pp.90-92。
- [6] 莊麗娟・賀梅英・張杰「農業生産性服務需求意願及影響因素分析—以広東省450戸荔枝生産者の調査為例」『中国農村經濟』2011年3月号、2011年、pp.70-78。

（2018年5月18日受理）